

無線サイト調査に関する FAQ

内容

概要

[サイト調査とは何ですか。](#)

[無線サイト調査の必要性は何ですか。](#)

[適切なサイト調査を行う上で考慮すべき設計上の制約は何ですか。](#)

[無線サイト調査の結果はどのようなものですか。](#)

[サイト調査を完全に実施するには、どのような基本機器が必要ですか。](#)

[サイト調査を行う手順には何がありますか。](#)

[National Electronics Manufacturers Association \(NEMA; 米国電子工業会 \) のエンクロージャとはどのようなものですか。](#)

[Aironet Client Utility \(ACU \) サイト調査ツールの機能とはどのようなものですか。](#)

[Aironet Client Utility \(ACU \) サイト調査ツールで使用できる 2 つのモードとはどのようなものですか。](#)

[Aironet Client Utility \(ACU \) の Link Status Meter \(LSM; リンク ステータス メーター \) ユーティリティの用途を教えてください。](#)

[Aironet Client Utility \(ACU \) サイト調査ツールを使用してサイト調査を行う場合のガイドラインはどのようなものですか。](#)

[Aironet Desktop Utility \(ADU \) にサイト調査ツールはありますか。CB21AG 無線カードを使用していますが ADU にサイト調査ツールが見あたりません。](#)

[Cisco.com から Aironet Desktop Utility\(ADU\)の最新リリースをインストールしました。サイト調査ツールがADUで見つかりませんか？](#)

[Aironet Desktop Utility \(ADU \) および Aironet Client Utility \(ACU \) で利用できるサイト調査ツールの使用方法を詳しく説明したドキュメントはありますか。](#)

[Cisco Aironet 1131 および 1242 のアクセス ポイントを使用してサイト調査を行い、その結果を利用して Airespace Wireless ソリューションを展開することは可能ですか。](#)

[Aironet Client Utility \(ACU \) と Aironet Desktop Utility \(ADU \) のサイト調査ツールを使用して完全なサイト調査を行うことはできますか。](#)

[802.11b クライアント カードを 802.11g アクセス ポイントのサイト調査に使用することはできますか。](#)

[Cisco Aironet 1242 アクセス ポイント \(AP \) をオフィスにインストールする必要があります。AP 1232 をサイト調査に使用できますか。](#)

[Aironet 1210 アクセス ポイントのカバレッジを測定する必要があり、Aironet Desktop Utility \(ADU \) のサイト調査ツールをラップトップ PC で使用したいと考えています。ところが、対象アクセス ポイントのカバレッジの限界点を探し出す前に、ラップトップ PC がどうしても別のアクセス ポイントにローミングしてしまいます。カバレッジの範囲を調べるため、ラップトップ PC を対象アクセス ポイントからローミングさせない方法がありますか。ADU で「Preferred AP」を設定していますが、それでもローミングを防ぐことができません。](#)

[ワイヤレス LAN \(WLAN \) ネットワークに音声ベースのアプリケーションがある場合は、サイト調査の手順が変わりますか。](#)

[Cisco が推奨する音声サイト調査にはどのようなタイプのものがありますか。](#)

[サイト調査を実施している時に探す無線周波数 \(RF \) 干渉源となる可能性のあるものは何ですか](#)

。

Wireless LAN Solution Engine (WLSE) を持っています。これをサイト調査に使用することはできますか。

サイト調査を行うために、Wireless LAN Solution Engine (WLSE) で Wireless Domain Services (WDS) を設定する必要がありますか。

チャンネル使用率とは何ですか。

さまざまな環境において推奨される、または最小の信号対雑音比 (SNR) はどの位ですか。

Cisco a/b/g Wi-Fi カード (CB21AG) を使用しており、このカードは最新のドライバを使用しています。Aironet Site Survey ユーティリティを使用しています。Access Point (AP) Scan List タブに、ネットワーク名 (たとえば SSID) がなくて、AP 名がある AP がいくつか表示されます。AP 名とはどのような情報ですか。なぜ AP 名が表示されて、SSID が表示されないのですか。802.11b のセキュアな複数の AP で、これが起こっているようです。この情報は Aironet の拡張機能が使用される場合にだけリレーされるのですか。

ピコセルモード機能の意図は何ですか。また、それは WLAN 環境でどのようにパフォーマンスを最適化しますか。

信号対雑音比 (SNR) とは何ですか。

Dynamic Channel Assignment (DCA) および Transmit Power Control (TPC) のような、Radio Resource Management (RRM) のダイナミック制御機能を使用する必要がありますか。それとも、サイト調査から得られた固定値を使用する必要がありますか。ダイナミックな方式 (RRM) を使用して無線で VoIP を使用する場合、問題は起こりますか。

Cisco Unified Wireless Network で Cisco 7920 IP Phone を展開する予定です。最適なパフォーマンスを実現するために、このモデルの IP Phone を展開するベストプラクティスまたは要件ガイドラインはありますか。

関連情報

概要

このドキュメントでは、ワイヤレス サイト サーベイに関して最もよく寄せられる質問 (FAQ) について説明します。

Q. サイト調査とは何ですか。

A. 無線周波 (RF) サイト調査は、ワイヤレスネットワークの導入における最初のステップであり、必要な動作を確保するための最も重要なステップです。サイト調査は、調査担当者が RF の動作を理解するため、ファシリティを調査し、RF のカバレッジ エリアを調べ、RF 干渉をチェックして無線デバイスの適切な配置を決定する、タスク単位のプロセスです。

Q. Wireless Site Survey の必要性は何ですか。

A. 無線ネットワークでは、無線周波数 (RF) 信号が施設のすべての部分に到達するのを妨げる問題が多く発生する可能性があります。RF 問題の例には、マルチパスによる歪み、隠しノードの問題、および遠近の問題が含まれます。これらの問題に対処するには、問題の発生する領域を探し出す必要があります。そのためにサイト調査が役立ちます。サイト調査は、特定のファシリティにおける RF カバレッジの輪郭を定義するのに役立ちます。マルチパスによる歪みが起こる領域や RF 干渉の高いエリアを発見したり、それらの問題を除去する解決方法を探す手助けとなります。ファシリティの RF カバレッジ エリアを判定するサイト調査は、企業がビジネス要件を満たすために必要な無線デバイスの数を選択するのにも役立ちます。

Q. 適切なサイト調査で対処すべき設計上の制約は何ですか。

A. サイト調査を行う際に考慮する必要がある4つの主な設計要件は次のとおりです。

1. ハイアベイラビリティ
2. 拡張性
3. 管理性
4. 相互運用性

Q. 無線サイト調査の結果は何ですか。

A. 適切なサイト調査では、カバレッジ、干渉源、機器の配置、電力に関する考慮事項、および配線要件に関する詳細情報が提供されます。サイトの調査書は、無線通信インフラストラクチャの確認、インストール、およびネットワーク設計を行う際のガイドとして使用できます。

Q. サイト調査を完了するには、どのような基本的な機器が必要ですか。

A. サイト調査の完了に必要な基本的な機器やユーティリティには、次のものがあります。

1. 無線アクセスポイント
2. 無線クライアントカード
3. ラップトップPCまたはPDA
4. さまざまなアンテナ(企業の要件に応じて)
5. サイト調査ユーティリティソフトウェア

Q. サイト調査を実行する手順は何ですか。

A. 最適な結果を得るには、プロのインストーラが必要です。実行する手順は次のとおりです。

1. 潜在的な無線周波数(RF)の障害を特定するために、ファシリティダイアグラムを入手します。
2. 目視でファシリティを調べて、潜在的な障壁やRF信号の伝播を確認し、金属ラックを特定します。
3. ユーザによる使用頻度の高いエリアと、使用されないエリアを特定します。
4. 予備的なアクセスポイント(AP)ロケーションを決定します。これらのロケーションには、電源と有線ネットワークアクセス、セルのカバレッジとオーバーラップ、チャンネル選択、および取り付け位置とアンテナが含まれます。
5. APロケーションを検証するため、実際の調査を行います。調査でも、必ず実稼働環境で使用するのと同じAPモデルを使用してください。調査が実施されている間、必要に応じてAPを移動し、再テストを行います。
6. 調査結果を文書化します。ロケーションと信号測定値のログと同様に、外部境界でのデータレートも記録します。

Q. NEMA(National Electronics Manufacturers Association)エンクロージャとは何ですか。

A. アクセスポイント(AP)が、極端な湿気、温度、ほこり、および粒子の影響を受けるエリアに配置されることもあります。このような場合、アクセスポイントを密閉エンクロージャ内に取り付ける必要がある場合があります。NEMAにはこのようなエンクロージャの評価システムがあり、これらのボックスを一般的にNEMAエンクロージャと呼びます。

Q. Aironet Client Utility(ACU)サイト調査ツールの機能は何ですか。

A. ACU Site Surveyツールは、サイト調査の実施を支援します。このツールは無線周波数 (RF) レベルで動作し、ネットワークのインフラストラクチャ デバイスの最適な配置とカバレッジ (オーバーラップ) を決定するために使用されます。ネットワークの現在のステータスがクライアント アダプタから読み取られ、1 秒間に 4 回表示されるため、ネットワーク パフォーマンスを正確に測定できません。受け取ったフィードバックにより、クライアント アダプタとそれに関連付けられているアクセス ポイント (または他のインフラストラクチャ デバイス) の間の接続が失われる可能性のある、低 RF 信号レベルのエリアを排除できます。

Q. Aironet Client Utility(ACU)サイト調査ツールを使用できるモードはどれか？

A. ACUサイト調査ツールは2つのモードで動作できます。

- パッシブ モード
- アクティブ モード

パッシブ モードでは、RF の動作を把握するための RF トラフィックの起動は行われません。代わりに、クライアント アダプタが受信するトラフィックを受信して結果を表示します。ACU サイト調査ツールをパッシブ モードで使用する方法については、『[Passive Mode の使用方法](#)』を参照してください。

アクティブ モードでは、クライアント アダプタは関連付け先のアクセス ポイントと低レベルの RF パケットをアクティブに送受信し、その成功率を表示します。このモードでは、サイト調査の実行方法 (データ レートなど) を制御するパラメータも設定できます。ACU サイト調査ツールをアクティブ モードで使用する方法については、『[Active Mode の使用方法](#)』を参照してください。

Q. Aironet Client Utility(ACU)のLink Status Meter(LSM)ユーティリティの用途を教えてください。

A. LSMユーティリティは、クライアントアダプタとそれに関連するアクセスポイント(AP)間の無線周波数(RF)リンクのパフォーマンスを判別するために使用されます。LSM の情報は、RF ネットワーク内の最適な AP の数と配置を決定するのに使用できます。LSM を使用して様々なロケーションにある RF リンクにアクセスすることで、パフォーマンスの弱いエリアを避け、クライアント アダプタと AP の間の接続が失われる危険性を取り除くことができます。

Q. Aironet Client Utility(ACU)サイト調査ツールを使用してサイト調査を行う場合のガイドラインは何ですか。

A. ACU Site Surveyツールを使用する場合は、次のガイドラインに従ってください。

1. 無線周波数 (RF) リンク機能と他のすべてのシステム、およびノイズ源が動作しているときにサイト調査を行います。
2. モバイル ステーションからサイト調査を完全に行います。
3. アクティブ モードを使用するときは、すべての変数を実稼動時の値に設定してサイト調査を実施します。

Q. Aironet Desktop Utility(ADU)でサイト調査ツールを使用できますか。CB21AG 無線カードを使用していますが ADU にサイト調査ツールが見あたりません。

A. Site Surveyツールは、ADUリリース2.0以降で使用できます。それより前のリリースのADUにはサイト調査ツールが付属していません。ADUのリリースをチェックしてください。古いバージョンのADUを使用している場合は、ADUの最新リリースにアップグレードしてください。クライアントアダプタファームウェアおよびユーティリティの最新リリースは、『[Wireless downloads](#)』（登録ユーザ専用）ページにあります。

Q. Cisco.comからAironet Desktop Utility(ADU)の最新リリースをインストールしました。サイト調査ツールがADUで見つかりませんか？

A. サイト調査ツールは、クライアントアダプタソフトウェアのインストール中に[サイト調査ユーティリティのインストール]をオンにした場合にのみインストールされます。これにチェックマークを入れていなくてサイト調査ツールを使用するには、クライアントアダプタソフトウェアをアンインストールしてから再インストールし、必ず [Install Site Survey Utility] にチェックマークを入れます。

Q. Aironet Client Desktop(ADU)およびAironet Client Utility(ACU)で利用できるサイト調査ツールの使用方法について詳しく説明したドキュメントはどこで入手できますか。

A. Aironet Desktop Utility(ADU)を使用するには、『Cisco Aironet 802.11a/b/gワイヤレスLANクライアントアダプタ(CB21AGおよびPI21AG)インストールおよび設定ガイド』の「[サイト調査の実行](#)」を参照してください。サイト調査ツール

Aironet Client Utility (ACU) のサイト調査ツールを使用するには、『Cisco Aironet 340/350/CB20A ワイヤレス LAN クライアント アダプタ インストール インストレーション コンフィギュレーション ガイド Windows 版』の「[サイト調査の実行](#)」セクションを参照してください。

Q. Cisco Aironet 1131および1242アクセスポイントを使用してサイト調査を行い、その結果を使用してAireospace Wirelessソリューションを導入することはできますか。

A. はい、適切なサイト調査が行われ、その結果が効果的なワイヤレスソリューションになる限り、これを行うことができます。この場合、どのようなサイト調査ツールも使用できます。

Q. Aironet Client Utility(ACU)およびAironet Desktop Utility(ADU)のサイト調査ツールを使用して、完全なサイト調査を行うことはできますか。

A. Aironet Client Utility(ACU)およびAironet Desktop Utility(ADU)に付属するサイト調査ツールは、サイト調査を支援するだけです。これらのツールを完全なサイト調査に使用しないでください。サイト調査はインストールのプロフェッショナルが行うべきであり、専門的なサイト調査に使用するツールは他にも多数あります。ACU/ADUのサイト調査ツールは、プロフェッショナルなサイト調査エンジニアの代わりにはなりません。

Q. 802.11bクライアントカードを使用して、802.11gアクセスポイントのサイト調査を行うことはできますか。

A. 802.11b無線を使用して、802.11g無線でサイト調査を行うことができます。ただし、802.11g無線に特化したより完全なサイト調査を行うには、802.11gのカードを使用してください。

**Q. Cisco Aironet 1242アクセスポイント(AP)をオフィスに設置する必要があります。
。AP 1232 をサイト調査に使用できますか。**

A.サイト調査とインストールには、同じAPを使用することを推奨します。これは、2つのAPのレンジが異なるためです。1種類のAPでサイト調査を行い、異なるタイプのAPをインストールする場合、レンジは異なります。詳細は、『[Cisco Aironet 1230AG シリーズ 802.11A/B/G アクセスポイントのデータシート](#)』および『[Cisco Aironet 1240AG シリーズ 802.11A/B/G アクセスポイントのデータシート](#)』を参照してください。

Q. Aironet 1210アクセスポイントのカバレッジを測定する必要があります、ラップトップでAironet Desktop Utility(ADU)サイト調査ツールを使用する必要があります。ところが、対象アクセスポイントのカバレッジの限界点を探し出す前に、ラップトップPCがどうしても別のアクセスポイントにローミングしてしまいます。カバレッジの範囲を調べるため、ラップトップPCを対象アクセスポイントからローミングさせない方法がありますか。ADUで「Preferred AP」を設定していますが、それでもローミングを防ぐことができません。

A.ターゲットアクセスポイント(AP)とクライアントにテストSSIDを作成します。このSSIDは、無線ネットワークの他のAPに存在しないものである必要があります。このSSIDを使用して、カバレッジの範囲を測定できます。テスト用SSIDは、カバレッジを測定するAP以外のAPには存在しないため、クライアントは他のAPにローミングしません。調査を終了したらAP上でテスト用SSIDを無効にし、実稼働用のSSIDをアクティブにできます。

**Q.無線LAN(WLAN)ネットワークに音声ベースのアプリケーションがある場合、
サイト調査の手順は変更されますか。**

A.無線データネットワークに音声を導入する際には、サイト調査の手法を変更する必要があります。同じサイトでも、無線の音声カバレッジの調査には、データのみのカバレッジよりも時間と労力がかかります。音声の調査には、カバレッジのプランニングに加え、キャパシティのプランニングも必要です。セルのオーバーラップ、無線周波数(RF)ノイズ、およびパケット遅延に関しては、無線データの方が無線音声よりも分断の影響を受けません。音声ベースのWLANでサイト調査を行う方法については、『[VoIP 調査を成功させるための推奨事項](#)』を参照してください。

Q.シスコが推奨する音声サイト調査の種類にはどのようなものがありますか。

A.無線LAN(WLAN)Voice over IP(VoIP)調査には、次の2種類があります。

- Wireless IP Telephony (WIPT) 受話器で行う調査
- WIPT の動作をシミュレーションする調査

ワイヤレス LAN VoIP のサイト調査の実施についての詳細は、『[WIPT 調査の実施](#)』を参照してください。

Q.サイト調査を実施する際に探すべき無線周波数(RF)干渉の原因として考えられるものはどれか？

A. WLAN干渉は、電子レンジ、2.4 GHzコードレス電話、Bluetoothデバイス、または2.4 GHz帯域で動作するその他の電子機器によって生成されます。干渉はまた、WLANに属しているが離れているために信号が弱くなったり途絶えたりしている他のアクセスポイント(AP)やクライアントデバイスからも、発生することが一般的にあります。ネットワークインフラストラクチャの

一部ではない AP が WLAN 干渉を引き起こし、不正な AP として識別される場合もあります。サイト調査を実行するときには、これらのデバイスを特定して除去する必要があります。

Q. Wireless LAN Solution Engine(WLSE)を使用しています。これをサイト調査に使用することはできますか。

A. WLSEを使用してサイト調査を行うには、Assisted Site SurveyツールとAutomated Resite Surveysツールを使用できます。Assisted Site Survey ツールを使用してサイト調査を行う方法については、『[Location Manager の Assisted Site Survey Wizard を使用する](#)』を参照してください。

Automated Re-Site Survey ツールの使用方法については、『[Auto Re-Site Survey について](#)』を参照してください。

Q.サイト調査を行うために、Wireless LAN Solution Engine(WLSE)でWireless Domain Services(WDS)を設定する必要がありますか。

A.はい。WLSEを使用したサイト調査に関与できるのは、WDSのメンバーだけです。WLSE のすべての無線管理機能で WDS が動作する必要があります。これには、無線カバレッジと不正を検出する機能が含まれます。WDS の設定方法については、『[WDS の設定](#)』を参照してください。

Q.チャンネル使用率とは何ですか。

A.チャンネル使用率とは、チャンネルが使用できない時間または使用中の時間です。特定のAPには、クライアントを接続せず、送信時間と受信時間を最小限に抑えることができます(ただし、チャンネル使用率は高くなります)。チャンネルは、内部ネットワークと隣接ネットワークの両方で、同じチャンネル上のすべてのAPで共有されます。非Wi-Fi干渉によって上昇させることもできます。

Q.異なる環境で推奨されるSingle-to-Noise比または最小ノイズ比はどれか？

A.この表は、音声セルとデータセルの信号対雑音比の最小値を示しています。

Data Rate (Mbps)	Data Cell		WIPT Cell	
	Minimum Cell Edge Signal Strength	Minimum SNR	Minimum Cell Edge Signal Strength	Minimum SNR
54	-71	25	—	—
36	-73	18	—	—
24	-77	12	—	—
12 or 11	-82	10	-67	25
6 or 5.5	-89	8	-74	23
2	-91	6	-76	21
1	-94	4	-79	19

SNR、RSSI、およびEIRPの詳細については、「[SNR、RSSI、EIRP、および空き容量パス損失](#)」を参照してください。

Q. Cisco a/b/g wi-fiカード(CB21AG)を使用しており、最新のドライバを使用しています。Aironet Site Survey ユーティリティを使用しています。Access Point (AP) Scan List タブに、ネットワーク名 (たとえば SSID) がなくて、AP 名がある AP がいくつか表示されます。AP 名とはどのような情報ですか。なぜ AP 名が表示されて、SSID が表示されないのですか。802.11b のセキュアな複数の AP で、これが起こっているようです。この情報は Aironet の拡張機能が使用される場合にだけリレーされるのですか。

A. AP NameはAPのホスト名です。これは、AP で Aironet Extensions がイネーブルになっている場合にだけ、サイト調査の出力に表示されます。AP で Beacon のオプションが Broadcast SSID を選択しているか、Guest Mode SSID がイネーブルになっている場合にのみ、使用可能なネットワークのリストに AP の SSID (ネットワーク名) が表示されます。

Q. Pico Cell Mode機能とは何ですか。また、WLAN環境でパフォーマンスを最適化する方法を教えてください。

A.ピコセルは、アンテナによって提供される無線プロビジョニングの小さな領域で、証券取引所などのインストール用に高密度の高帯域幅の展開を可能にします。ピコセル無線構成では、ピコセル環境で正しく機能する特定のサブリカントが必要です。市販のラップトップ サブリカントはサポートされません。多くの AP が近接している場合、このピコセルモードは小さい無線セルにコントローラを最適化します。

注：WLAN内でPico Cellの機能を設定する際は、セールスチームに相談する必要はありません。標準外のインストールはサポートされません。

詳細は、「[ピコセル機能](#)」を参照してください。

Q.信号対雑音比(SNR)とは何ですか。

A. SNRは、伝送メディアのバックグラウンドノイズに対する特定の送信信号の比率として定義される電気工学の概念です。SNR は無線環境で広く利用され、通常、信号とバックグラウンドノイズの間の電力比を指しています。

$$\text{SNR} = P(\text{Signal})/P(\text{Noise})$$

SNR は通常、対数表記のデシベル スケールで表されます。デシベルでは、SNR は振幅比率の底を 10 とする対数の 20 倍、または電力比率の対数の 10 倍になります。

$$\text{SNR(dB)} = 10 \log_{10} \left(\frac{P_{\text{signal}}}{P_{\text{noise}}} \right) = 20 \log_{10} \left(\frac{A_{\text{signal}}}{A_{\text{noise}}} \right)$$

Q. Dynamic Channel Assignment (DCA ; ダイナミックチャネル割り当て) や Transmit Power Control (TPC ; 送信電力制御) などのRadio Resource Management(RRM)のダイナミック制御機能を使用すべきですか。それとも、サイト調査から得られたスタティック値を使用すべきですか。ダイナミックな方式

(RRM) を使用して無線で VoIP を使用する場合、問題は起こりますか。

A.通常、RRMはチャンネル選択よりも電力レベルに重点を置きます。すべての AP が展開されると、RRM がアクセスポイント (AP) のチャンネルを変更することはほとんどありません。しかし、隣接の干渉には対応でき、必要に応じてすべてのチャンネルのローテーションが可能です。

電力については、7920 などの電話機が、Dynamic Power Management (DTPC) をサポートしているのは有効です。DTPC では、電力とチャンネルの問題に自動的に対処されます。

最初の調査はお客様のニーズを満たすだけの十分な密度を得るのに不可欠ですが、その後はコントローラ自身のジョブを遂行させます。唯一、可能性のある例外は屋外です。屋外では、セクターアンテナのカバレッジの性質により、手動での電力調整を行う傾向があります。詳細は、『[RRM](#)』を参照してください。

Q. Cisco 7920 IP PhoneをCisco Unified Wireless Networkに導入する予定です。最適なパフォーマンスを実現するために、このモデルの IP Phone を展開するベストプラクティスまたは要件ガイドラインはありますか。

A. Cisco Unified Wireless Networkに7920 IP Phoneを導入するための重要な要件を次に示します。

- 電話機では、最低限ソフトウェアバージョン 3.01 が稼働している必要があります。
- コントローラでは、最低限 3.2.116 以降が稼働している必要があります。
- Dot11-phone compat および CAC limit を WLAN で「ON」にする必要があります。
- 7921 Phone が存在する場合、ARP ユニキャストをコントローラ設定で無効にする必要があります。
- アグレッシブ ロード バランシングのステータスを、コントローラ設定で無効にする必要があります。
- WLAN で DHCP アドレス割り当てを NOT required に設定する必要があります。
- コントローラがパケットにタグ付けする場合、Cisco スイッチではネイティブ VLAN が VLAN 1 であることが要件になります。
- Cisco Wireless IP Phone 7920 以外の音声クライアントのために音声 VLAN で WMM が必要な場合、WMM 設定を Allowed に設定する必要があります。そうでない場合は、無効になる可能性があります。
- WLAN QOS は、Platinum に設定する必要があります。
- Cisco Unified Wireless に複数の WLC がある場合、Mobility を「ON」にする必要があります。
- Cisco Unified Wireless に複数の WLC がある場合、RF domain-name を「ON」にする必要があります。
- 11 M未満のレートを無効にします。11Mはbasic/mandatoryで、その他(より大きい値)は「supported」である必要があります。
- WLC で EAP-FAST を使用する場合、802.1x のタイムアウトは 2 秒です。これは 7920 では PAC をダウンロードして処理するのに十分な時間ではありません。タイムアウトは、次のコマンドで増やすことができます。config advanced eap request-timeout 20.
- Peer-to-Peer blocking は、「controller」タブの下で OFF にする必要があります。デフォルトは off です。
- 少なくとも 2 つの AP が、35 よりも上の RSSI と 45 よりも下の QBSS で、電話機のレンジ内のオーバーラップしていないチャンネル上にある必要があります。

- 少なくとも1つのAPが、35よりも上のRSSIと45よりも下のQBSSで、電話機のレンジ内のオーバーラップしているチャンネル上にある必要があります。
- 次の値は、7920の[Network] > [Site]アンケートのフォームに表示されます。チャンネル、RSSI、チャンネル使用率。
- セルカバレッジでは、オーバーラップは15 ~ 20%を超えないようにする必要があります。
- AP配置は、APごとに10コール以下である必要があります。

『Cisco Unified Wireless IP Phone 7921G 展開ガイド』を参照して、Cisco Unified Wireless Networkで7921G Phoneを展開するための前提条件とベストプラクティスについて確認してください。

[関連情報](#)

- [Radio Resource Management \(RRM \)](#)
- [サイト調査の実行](#)
- [サイト調査ガイド : Cisco 7920 IP Phone の展開](#)
- [サイト調査およびRF設計検証](#)
- [WLSE : サイトに関する FAQ とトラブルシューティング](#)
- [ワイヤレスに関するサポート ページ](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)